

“エンジンフォーラム神戸 2020”

JA2024開催をPR／全国航空機クラスター・ネットワーク出展

国際航空宇宙展2024（JA2024）の開催告知および全国航空機クラスター・ネットワーク（NAMAC）による海外販路開拓支援を主目的として、2020年10月20日（火）～21日（水）にかけて神戸で開催された“エンジンフォーラム神戸（HYBRID）2020”に出展・参加したので紹介する。

1. エンジンフォーラム神戸（HYBRID）2020の概況

(1) 開催概要

開催日程：2020年10月20日(火)～21日(水)

Seminar：10月20日(火)AM

B to B meeting：10月20日(火)PM
～21日(水)終日

開催場所：神戸国際展示場3号館／兵庫県・神戸市

主催者：BCI Aerospace

(2) 展示会（商談会）の概況

エンジンフォーラム神戸は、エンジンに焦点を当てた日本で開催される、初の商談会（B to B meeting）であり、神戸市のポートアイランドにある神戸国際展示場の3号館（面積約3,800㎡）を使用して開催された。

展示場内には出展各社の商談用のBoothの他、セミナー会場が設置され、“Industry Forecast and Key Trend”と題して商談会に先立ち以下の基調講演があった。

（海外の方の基調講演は、ビデオ録画されたものを放映する形にて実施された。）

「航空機産業振興に向けた日本の取組みについて」

経済産業省 製造産業局

航空機武器宇宙産業課

航空機部品・素材産業室長 宮越 朗 氏

「航空エンジンのギアド化と当社のギアボックス製品」

川崎重工業株式会社

航空宇宙システムカンパニー

航空エンジンディビジョン

民間エンジンプロジェクト 総括部

副総括部長

坂野 孝彦 氏

“Aero Engine Sub-Tier Suppliers Megatrends and New Normal”

Senior Business Advisor, Inno-centre,
Montreal, Canada

Dr. Nabil Saad

“Technology Solutions to the Business Challenges of Today”

Leading Program Management and Operations,
Pratt & Whitney

Mr. Arun Srinivasan

また、今回の商談会では、通常的面談（Face to Face）による商談に加え、新型コロナウイルスの感染拡大により来場できない海外企業との商談のためにWEB（WebExなどを使用）によるオンライン商談も併せて実施され、面談とWEBの2方式によるHYBRID形式の商談会となっていた。

今回の商談会の開催規模など、他の商談会との比較を以下に示す。

エンジンフォーラム神戸 (HYBRID) 2020 開催規模 比較

	エンジンフォーラム 神戸 (HYBRID) 2020 (注1)	エアロマート 名古屋 2019 (注1)	JA2018 TOKYO (注2)	JA2016 (注2)
参加企業/ 団体数	201社・団体 (ビジター含む) (出展企業102社・団体)	263社・団体	137社・団体	316社・団体
参加国数	17ヶ国・地域	19ヶ国・地域	15ヶ国・地域	24ヶ国・地域
商談件数	1,400件	3,800件	1,438件	4,457件
会 場	神戸国際展示場	名古屋 吹上ホール	東京ビッグサイト	東京ビッグサイト
商談形式	面談+WEB	面談	面談	面談

注1：エンジンフォーラム神戸、エアロマート名古屋、主催者発表値より。

注2：JA2018 TOKYO、JA2016、におけるB to B meeting 開催規模 展示会結果報告書より。

出展社には、開催地が神戸ということもあり西日本の地方自治体・航空宇宙産業クラスターが目立った。今回は、新型コロナウイルス

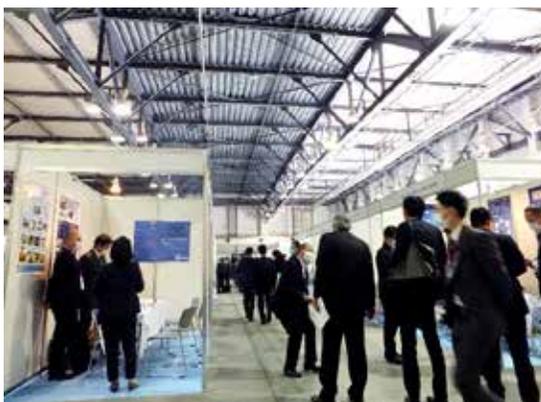
スの世界的な感染拡大の影響を受け、世界各国の航空クラスター、政府機関、工業会などの展示は無かった。



展示場入口の手指消毒／検温



商談会会場 入口全景



各社の商談用Booth



展示会場内のセミナー会場



SJAC Booth全景



隣接したNAMAC Boothと SJAC Booth



オンライン（WEB）商談用Booth



海外企業とのオンライン（WEB）商談

今回の商談会では、WEB商談の実施に加え、商談会出展者にはバーチャル展示が準備されており、仮想の展示会場に仮想の展示

Boothを作ることができ、出展者の製品、サービス、活動などを紹介できる場が設けられていた。



バーチャル展示場内のSJAC JA2024 PR Booth

SJACもバーチャル展示場にJA2024の開催告知を目的とした仮想の展示Boothを出展し、

このBooth内の掲示物、ビデオなどから、JA2024関連情報にリンクを貼り、バーチャル展示会を訪れた関係者に対して、JA2024の開催関連情報に誘導できるよう工夫した。

また、当初、商談会初日（10月20日）夕刻には、出展者間のNetworkingの場としてのReceptionが予定されていたが、新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、Receptionは中止となった。

2. SJACの活動概況

今回、SJACは当初予定していたJA2021の東京オリンピック・パラリンピック開催延期に伴う開催中止、また、次回の開催が世界的な新型コロナウイルスの感染拡大による航空宇宙産業への影響を考慮し2024年の秋の開催となったことの説明を主目的として参加した。

今回の商談会では、出展された地方自治体・航空宇宙産業クラスター、過去に国際航空宇宙展に参加された出展企業を中心に面談を実施、13社・団体との面談を事前に設定、実施した。



JA2024 PR 活動中のSJACブース

また、上記の13社・団体以外の出展者・来訪者に対しても、当方から相手ブースを訪問してのPR及びSJACブースへの来訪者などへのPRなど積極的に実施、JA2024の開催に向けた開催告知を行うことができた。

JA2024の開催告知にあたり、各出展者からはJA2021の開催が中止となったことに対して、残念であるとの意見が多数あり、各出展者の国際航空宇宙展に対する期待の高さを感じられた。

3. 全国航空機クラスター・ネットワーク (NAMAC) による出展

SJACでは、経済産業省関東経済産業局からの受託事業である「全国航空機クラスター・ネットワーク (NAMAC)」事務局として、海外販路開拓支援を主目的に、独自ブースを出展し、主に次の活動を実施した。

【海外メーカーとのビジネスマッチング・意見交換】

- ・セミナーでグリーン化への取り組みを紹介された、フランス・サフラン社駐日代表による日本企業ブース訪問をアレンジ。
- ・フランスの航空部品メーカーであるDAHER社駐日代表と、2月に新設された



サフラン社駐日代表のボノー氏（左）と、DAHER社駐日代表シャンロン氏（中央）

日本事務所からのビジネス展開について協力を約束。

- ・リモート形式の商談システムを用いて、サフラン エアクラフト システムズ社に対し、NAMACと我が国航空機クラスターの情報を提供。

【国内クラスター等との意見交換】

- ・神戸エアロネットワーク（KAN）をはじめとするNAMACのメンバーから、民間航空機産業の今後についての情報提供、教育機会についての要望、認定検査員育成情報を受領。
- ・旭金属工業(株)や伊福精密(株)等と、支援ニーズについて意見交換し、研究開発成果の横展開を推進する方針を確認。



伊福精密(株)ブース

【現地企業訪問によるビジネスマッチング】

- ・また、本商談会終了翌日の22日には、国内外の大手企業と共に(株)神戸工業試験場を訪問し、新たなビジネスに向けた意見交換を実施。



KANブース



(株)神戸工業試験場



旭金属工業(株)の研究開発成果

4. 所感

コロナ禍において開催された商談会（B to B meeting）ということもあり、主催者・出展者による感染防止対策が各所になされていた。また、コロナ禍のため海外からの出展者・来場者がほとんどいないということ、また、国内企業・団体でも商談会のようなイベントへの参加自粛などにより、参加者は類似の商談会に比べ少なく雰囲気の異なる商談会となった。

上記のように、昨年までの商談会とは雰囲気は大きく異なったが、商談に特化したイベントということもあり、出展者・来訪者間では多くの商談が実施され参加者の熱気を感じる商談会であった。

また、今回は面談による商談の他、海外企業との商談を中心としたWEBによるオンライン商談も実施されたが、時差の関係から午後（夕刻）のWEB商談となり、商談時間帯が限られる状態であった。

また、商談会初日（10月20日）には、オンライン機材のトラブル、取扱いが不慣れなことなどから、商談相手と繋がらない商談が幾つかあったとのこと、今後のWEBを利用した商談などを実施する場合の留意点と考えられる。これらの問題は、商談会2日目には改

善されていた。

今回、JA2021の東京オリンピック・パラリンピック開催延期に伴う開催中止、また、次の開催が世界的な新型コロナウイルスの感染拡大による航空宇宙産業への影響を考慮し2024年の秋の開催となったことの説明を主目的として参加したが、商談会に出展の地方自治体・航空宇宙産業クラスター関係者に対して、JA2024の存在を知ってもらう良い機会となり、充実した商談会であったと感じた。

コロナ禍での商談会となったが、コロナ禍でも開催されたことが、今後の展示会などの開催に向けた第一歩となると考える。

早期の、感染症の終息による、世界各国からの出展者・来訪者の参加できる通常の商談会が開催できることを期待するものである。

〔（一社）日本航空宇宙工業会 国際航空宇宙展事務局 部長 長井 利幸〕
調査部 部長 澤井 規行〕